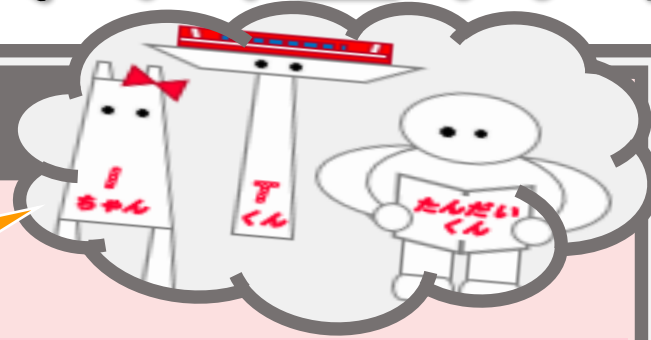




1 制御で課題解決を学ぶ

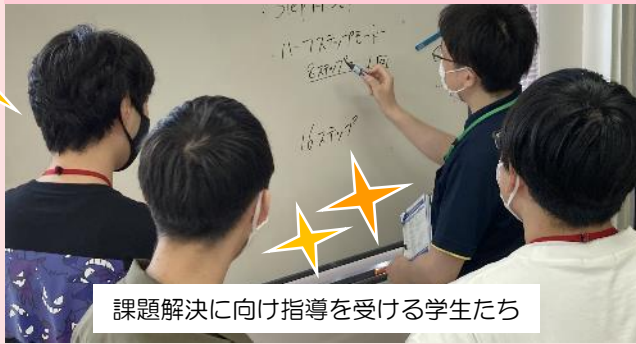


制御角度を確認する学生たち



9月6日(火)、第二学年のロボット工学の授業では、制御実習が行われていました。

学生は、パソコンで作成したプログラムでステップング・モーターを制御していました。実験では、パルスの数と回転角度の精度について、グループワークで確認していました。



課題解決に向け指導を受ける学生たち

4 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加え「社会人基礎力」向上のため、新聞スクラップを実施しています。

IT社会を支える人材育成の一環となるものです。

<記事> 読売新聞(2022年8月6日)
「国際社会の結束を固めなおす時」

◇要約

●清和杏羽さん(茨城東高卒)

ロシアがウクライナ侵攻を始めてから24日で半年となる。ロシアがウクライナ南部のザポリージャ原発を拠点化し、武器や軍用車両を配備している。民主主義国家の力が弱まりロシアが侵略に成功すれば世界は更に危険になる。

●金澤羽美さん(石岡一高卒)

国際秩序の維持に向けて、日本は対露制裁とウクライナ支援の輪に加わり働きかけを強めている。悪影響が中国から、台湾やアジアの安全保障へ及ぶのを防ぐなど、ロシアに付け入る隙を与えてはならない。

◇感想

●中村羽玖さん(勝田工高卒)

民主主義国家として、こういった侵略行為は許されてはいけません。でも口で言うだけでは意味がないのかもしれない。これ以上このロシアの行動を止めるには、何をしたら良いのか。よくわからないまま時間は過ぎていく。

●山田愛理さん(土浦第三高卒)

ロシアのウクライナ侵攻に対して、支援を行っている米欧は、ロシアだけでなく中国からも距離を置いている。自国の不利益を考えずに、ウクライナ支援を続ける国々はとても素晴らしいと思った。

●小林優希さん(常磐大高卒)

国際秩序の維持に向けて、民主主義陣営の結束力が問われる局面が今まであることを初めて知りました。また、ロシアに隙を与えてはならないことが大事だと思った。

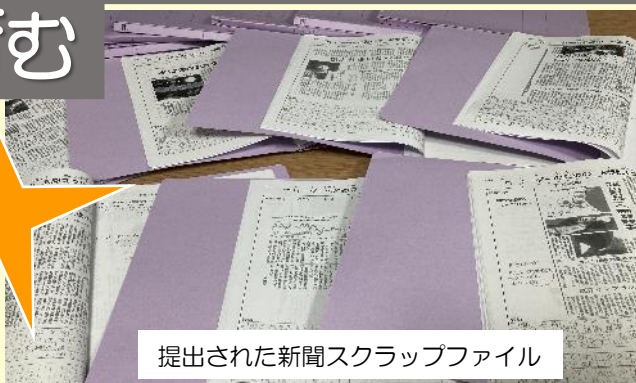
●柏海成さん(笠間高卒)

ロシアがウクライナに侵攻を初めてから半年になり、侵攻に対する関心が薄くなってきている。ウクライナへの支援は大切だが、民主主義国家の力が弱まらないよう注意も必要だ。

2 要約・感想で思考力を育む



新聞スクラップを眺める



提出された新聞スクラップファイル



新聞スクラップに取り組む学生

第一学年の学生全員が、4月から8月までの新聞スクラップ(各自26枚)を提出しました。新聞記事を読み込み、記事の要約と感想を書きあげました。担任の先生も「4月からの成長が良く分かる新聞スクラップです」と話していました。地域社会を知ること、より良いIT技術者を目指す学生達です。

3 みんなの母校訪問!

高 県立麻生高等学校

創立93年目の伝統校で、2万人を超える卒業生が各界でリーダーとして活躍しています。地域からは「おらが街の高校」として愛されています。

校歌のように、高い理想と誇りを持たせています。卒業生に対し青山泰久校長は「自己実現に向けて努力を惜しまない、玉藻イズムで頑張れ」と話されていました。



青山泰久 校長

